

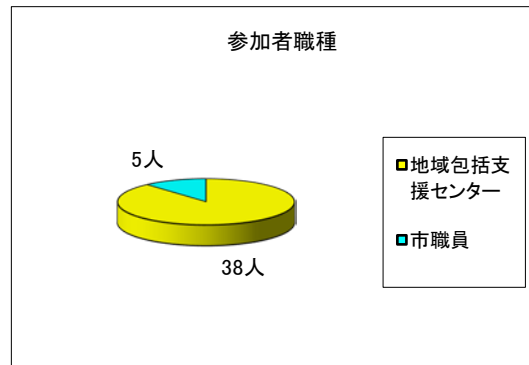
平成30年度 仙台市高齢者虐待対応研修会(1) アンケート集計結果

平成30年6月26日

参加者 43人
提出者 42人 98%

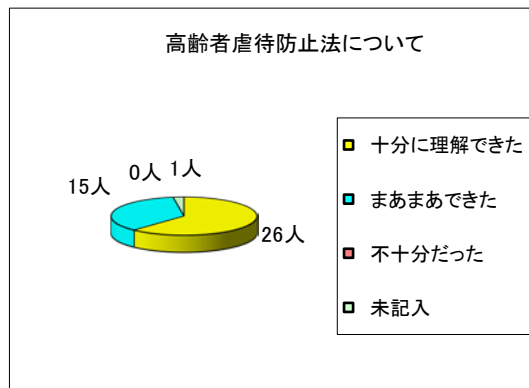
1. 参加者職種

	人数	割合
地域包括支援センター	38人	88.4%
市職員	5人	11.6%
合計	43人	100.0%



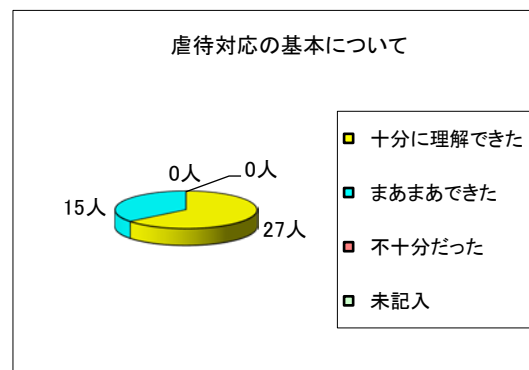
2. 受講の振り返り① 高齢者虐待防止法について

	人数	割合
十分に理解できた	26人	61.9%
まあまあできた	15人	35.7%
不十分だった	0人	0.0%
未記入	1人	2.4%
合計	42人	100.0%



2. 受講の振り返り① 虐待対応の基本について

	人数	割合
十分に理解できた	27人	64.3%
まあまあできた	15人	35.7%
不十分だった	0人	0.0%
未記入	0人	0.0%
合計	42人	100.0%



2. 受講の振り返り②

1 「高齢者虐待対応」について講義・演習によって得たことは何ですか (1)

- ・虐待が起きてから対応を考えるのではなく、その前の準備が大切だと思いました。包括はまだ3ヶ月目で、SWとして経験が浅く、虐待のケースに対して不安感もありましたが、チームで対応していくようにしたいです。
- ・虐待対応について、基本事項を確認することができました。
- ・本人の安心した生活を守る。
- ・緊急性の判断を迅速に行う。(突発的なのか、徐々にエスカレートしているのか。)
- ・相談に乗れる機関を知れて良かった。誰と協働すれば良いか少し想像できた。
- ・普段業務の中でも虐待問題は上がってきているが、研修の度に関わり方や考え方の難しさを思い知らされます。
- ・根拠法があり、マニュアルがあり、拠って立つもの、後ろ盾となるものがあることを、改めて学ぶことが出来ました。
- ・連携の大切さを改めて知ることが出来ました。
- ・通報後の対応だけでなく、事前の準備を大切にしたい。
- ・ポイントや基本的な部分の講義をして頂きましたので、再確認する項目が何点か分かりました。
- ・基本的な内容でしたが、日々仕事に追われ、社会福祉士としての勉強が出来ていない中で、有難い内容でした。
- ・法律の再理解。宮城県内の虐待の傾向や通報者の傾向。対応の基本。緊急性の判断。
- ・客観的、安全確保の最優先。組織的な対応。
- ・地域包括のケアマネとして、3職種に頼るのではなく、自身でしっかり基本的な事を学ぶ事が出来た。
- ・分離した際の施設との事前の話し合い、事業所に対する虐待の広報活動など、分かっていなかった事が沢山あり、勉強不足だと思いました。
- ・家族の理解が得られずストップしてしまっはいけない…同時進行で対応を進めていかなければならない事は、分かっていても行ってしまいがちな事と思った。高齢者本人が自覚していない、我慢してしまう事は少なくないと思うので、今後注意して対応していきたいと思った。
- ・虐待の連絡を受けた後のネットワーク作りがされていない。自分の知識がないことに気付いた。
- ・区に相談すればよい、だけでなく、関係者との連絡体制を明確にしておくべきだと思った。
- ・マニュアルを配付してもらったのが良かった。読み込みたいと思います。
- ・本人の自覚を問わない。緊急性の高い、低いについて、もう一度確認出来て良かった。
- ・法律、マニュアルの中の基本の振り返り。
- ・大まかな流れは理解できた。
- ・マニュアルの再確認。根拠を確認できた。
- ・求められる業務、対応などは理解できる(大変!!と思うことはあるけど)ただ、実際に現場で行政の方と検討しても、結果虐待の判断に至らない。家族がいる(虐待者)措置はできないが、繰り返されている現状が改めて分かった(共同理解できていない)そのための準備を個々のセンターとしてだけではなく、市としてもどうしていくか…検討が必要。
- ・改めて、地域包括支援センターとして、最低限整えておかなければならない事が明確になった。
- ・改めて、基本を振り返ることができた。事前準備の重要性について実感した。
- ・本人が分離を望んでいなくても、本人の保護のために必要であれば措置を講ずること。
- ・基本に立ち返ることができた。
- ・法律を中々きちんと読み込む時間がないが、基本をきちんと理解し対応にあたりたい。
- ・虐待している家族に対して、認知症や虐待への知識不足から軟禁していたのだろうと、虐待を受けている本人の立場より、家族の目線で対応してしまいそうだったことに気付いた。まず、本人の安全を第一にどう対応すべきか考えることが重要だと思いました。
- ・虐待は個人で対応するのではなく、組織で対応すること。
- ・虐待対応は事前の確認と準備が大切であること。
- ・地域での連携が十分取れていることが大事である。
- ・虐待対応ネットワークの構築について、特化した取り組みが必要だと思いました。
- ・虐待対応ネットワーク等、再度確認しておく必要性を感じた。
- ・本人の安全が最優先で、本人の利益や権利を守る。
- ・隣の人が担当区の職員さんだったので、顔の見える関係ができて良かった。
- ・早期対応の重要性や地域包括支援センターの役割。
- ・対応の仕方や緊急性の判断など、とても参考になりました。
- ・具体的事例を通じて、高齢者虐待の内容を学ぶとともに、虐待防止に向けた留意点を学ぶことができた。
- ・虐待対応について、どのような流れで進められるのか理解できた。

2. 受講の振り返り②

1 「高齢者虐待対応」について講義・演習によって得たことは何ですか (2)

- 対応の基本を振り返ることができた。
- 本人の権利について意識付けられた。
- 基本に立ち返って確認できて良かったと思います。
- 地域包括支援センターの役割について再確認できた。
- 実際どのように動いていけばよいか分からない状態だったので、事前に準備しておくこと。(ネットワークの確認,措置先との連携など)聞いて良かった。
- 虐待なのか分からない。判断できなくてもまず通報。(虐待に対する自覚は問わない。)
- まず,本人の安全が最優先。放置していることの弊害の方が大変。
- 緊急性の判断を早急に行う。早くしないと精神的におかしくなる。

2. 受講の振り返り②

2 得たことを実践でどのように活かそうですか (1)

- ・経験が浅いからこそ、「ほうれんそう」を大切にして、細かな対応が出来るようにしたいです。
- ・地域包括支援センターの役割を意識し、マニュアルを活用し、対応します。
- ・マニュアル配付は有難いです。
- ・一人で考えこまずに、包括チームで対応していきたいと思った。
- ・頂いたマニュアルをフルに使用していくつもりで、今後も日々業務に努めてまいります。
- ・まずは、マニュアル等しっかりと読み込むことを、改めて行っていかなければならないと感じました。
- ・職場に戻ったらネットワーク形成を確認し、対応出来るようにしていく。
- ・広報活動や今までの対応、今後の対応を確認していきたい。
- ・当センターの進捗状況、現状を確認し、不足部分について、構築出来るように話し合っていきたい。
- ・活かしていきたい。
- ・地域の皆さまの安心安全な暮らしを守れるよう、勉強を続けたいと思いました。
- ・相談時の対応判断。
- ・総合相談を受ける場合は、虐待対応の初歩が頭にあれば、少し余裕を持って聞く事ができるかもしれない。
- ・組織的に対応していくというところで、皆で対応していかななくてはと、実感した。
- ・目の前の利用者さんだけに目を向けていて、いざとなった時のネットワーク作りができていないと思った。
- ・コーディネーターともっと地域に出ていく必要があると感じた。
- ・地域包括支援センターに戻ったら、虐待ネットワーク、コアメンバー会議等を確認と周知し、実際に直ぐに対応出来るかどうか、行っていきたい。
- ・地域の実情の把握に努め、住民への周知活動をしていきたいと思った。
- ・根拠に基づいた対応が大切だと思うので、今日の資料を活用していきたいと思います。
- ・通報を受けた時の対応。冷静な判断をするためにもフローチャートは必要。
- ・ネットワークを作り、連携することが大切だということを学んだので、活かそうです。
- ・組織的な対応をする重要性を学んだので、その基本を実践する。
- ・ネットワーク作り、確認に直ぐに着手します。
- ・ネットワーク作りについて、事務所に戻り改めて確認したい。
- ・実態把握を虐待予防の視点からも見ていかなければならないと思う。
- ・虐待に対する視点がぶれないようにしたい。
- ・現状を把握していくことから始める。
- ・マニュアルが法律を使いやすくするためのものだという事。
- ・実際の事例が起きた時に慌てず対応できるのではないかと感じた。
- ・虐待防止ネットワークの確認。
- ・虐待の予防。
- ・法的に虐待対応が明確化されているので、養護者からの逆恨みについて、法的に守ってもらえること。
- ・虐待の疑いであっても、市町村への通報を実践していく。また、市町村に対しては客観的事実のみを伝えるとともに、その内容を記録に残すことで、主観的な考察は排除するよう心掛ける。
- ・地域包括支援センター内で、マニュアルの確認をすることが大切。異なる職種だからと関係ない出来事として考えず、勉強と思いつける。
- ・事案発生時や普段の業務の中で、他機関の連携も含めて活かしていきたい。
- ・虐待防止ネットワークは、数年前に構築していますが、構成メンバーも入れ替わりなどがあるので、再確認を行いたいと思います。
- ・虐待防止ネットワークの明確化。虐待防止に関する広報活動。措置の受け入れ先の確保をしたいと思う。
- ・まずは自分の包括で虐待対応についてどのようになっているか、確認しようと思います。
- ・覚えなければいけないことが沢山あるので、頂いた資料を読み返してみます。

2. 受講の振り返り②

3 「高齢者虐待対応」に関連して、更に学んでいく必要があると考えることは何ですか (1)

- ・マニュアルの読み込み不足と、法の理解が足りていない。自分の中の知識として落とし込めるようにしたい。
- ・具体的な事例での対応把握。
- ・初期段階の対応。措置対応の方法を学びたい。
- ・最低限以上の対応を学んでいきたい。
- ・高齢者の権利擁護と虐待防止ネットワークのメンバーをどう考えるか。
- ・まずは、マニュアル等しっかりと読み込むことを改めて行っていかなければならないと感じた。
- ・話の切り出し方、介入の仕方のスキルアップ。
- ・法律、マニュアル、ハンドブックを勉強し、理解する事が必要であると、強く感じた。
- ・対応方法、状況のアセスメント能力。
- ・色々な制度等理解していく必要がある。
- ・精神的に色々抱えている家族への対応。
- ・マニュアルをもっと読み込まなければならない。
- ・いざとなった時のために、地域に入り関係作りをしていく。
- ・今回、社会福祉士ではなく、看護師、ケアマネが参加し、法律から実際にどのように動いていけば良いかを学びに参加した。学んだことを熟知して、包括職員全員で学んでいかなければならないと思う。
- ・障害者関係の知識、認知症の理解、成年後見制度の理解が必要。
- ・マニュアルやハンドブックを再確認したいと思いました。
- ・行政との連携について、どうしていったら良いか悩みます。
- ・事例に対しての対応、解決に向けての知識、経験が必要。
- ・ハンドブック等利用して、自分の地域の中のことと関連づけられるか。
- ・法律的なことはまだ不十分。
- ・ネットワーク作り。
- ・確認することが沢山ある。
- ・根拠を明確にし、優先順位をクリアにしておくこと、スピーディーに対応できると思う。
- ・精神的虐待を受けている人への対応に、現在苦慮している。
- ・幅広い対応について学んでいきたい。
- ・地域への広報。ケアマネ、事業所へは出向き講話しているが、地域の方には敷居が高いようだ。
- ・ネットワークについて
- ・やはり具体的な事例を数多く学ぶ必要がある。
- ・通報する義務として「生命又は身体に、重大な危険が生じている」場合の判断で「その緊急性があったらまずは、救急車を呼んでるよ」で思うことあり。どうかと思う。
- ・複数の事例を通じて、内容を深めていければと感じている。
- ・対応について
- ・虐待をうけている人の支援だけではなく、養護者への支援の仕方。
- ・虐待者が虐待に至った経緯、原因を考察するとともに、虐待を未然に防ぐ取り組みを学ぶ必要があると感じた。
- ・各関係機関の存在と活用について。エール以外にも色々あると思うので。
- ・虐待者、被虐待者の背景(各々の理解)
- ・行政との連携。仙台市のマニュアルについて、包括と区の担当者で共同で確認。

2. 受講の振り返り②

4 その他、この研修で感じたことなど (1)

- ・どうして行政で対応するのかを正直考えた事がなかった。高齢者虐待が包括や市で対応する意味を考え対応にあたりたい。
- ・虐待ケース常にある(関わり)わけではないので、定期的に確認の場があることは助かります。
- ・虐待対応での分離は大事ですが、ひとつの通過点だと思います。分離後の本人への生活支援も難しいです。家族の理解が得られないことで困るのは、職員に被害が来ることではなく、その後の支援や関係が途絶えてしまうことだと思います。面倒だから措置しないということではないということ判って欲しいです。もちろん分離は大事な事とも思いますが…
- ・包括支援センターの中でのマニュアルを確認。コアメンバーの確認をしないとならないと思いました。
- ・虐待に介入することで、逆恨みにあう可能性を(世間体ではなく、経済的に)考えていなかった。
- ・やはり、難しい。
- ・やるべきこと、やらなければならないことが、山のようにあり、果たしてきちんとできるのだろうかと不安になりました。
- ・午後の研修だとありがたいし、助かります。
- ・もう少し初期の対応,具体的にどう介入していけば良いかを知りたかった。今後取り上げていただければ幸いです。
- ・講師お二人の先生の話が、分かりやすく楽しかった。
- ・とても分かりやすかった。
- ・実際に動く場合を考えてのネットワーク作り,しっかり確認する必要性を感じた。包括全員で話したいと思いました。
- ・質疑応答があると良かったです。
- ・毎日あることではないので,このような研修の場で振り返る機会は必要。
- ・放置することだけは無いように,何かあれば直ぐに所内で共有したいと思いました。
- ・窓側から2列目,後ろから2番目に座っていた仙台市のネームを下げた方(男性)ずっとスマホをいじってました。
- ・仙台市は区によっても全く対応が違う,なかなか措置は行わずそれこそケアマネ任せにする。こういったことは,直るのでしょうか。
- ・緊急性の判断は,マニュアル,研修資料等に記載されていても,実際に本人と家族の関係性からも「様子を見ましょう」になってくる。これは不安…。緊急性が支援者間で共有できていないと感じる。
- ・こうした研修を行政で重要な判断をする方々がしっかり理解できているのか?現場の保健師だけではなくある程度上の人も共通認識が大切。
- ・行政との共通理解が出来ていない。
- ・地域包括支援センターのやることが多いな～と思いました。(包括でやれていないこと)
- ・初めから対応できる人はいないという言葉聞き安心しました。
- ・研修時間があっという間に過ぎてしまった。もう少し長い時間でも良い。
- ・虐待における緊急性の判断を行うことは,非常に重要であると感じた。
- ・これまで自分の経験の中でいくつか対応する機会があったが,今後もさらに意識を高めていく必要があると感じた。
- ・時間が短かった気がします。
- ・包括として,虐待に関する様々なことが,ちゃんと整備されているか?オリエンテーションでも聞いていなかったなので,確認していきたい。